郡上八幡　町屋敷越前屋　竣工

歴史的な建物とまちづくりの融合

▲11月1日に竣工した町屋敷越前屋。11月2日のオープニングイベントから多くの人が訪れています。

11月1日（金）に「郡上八幡　町屋敷越前屋（以下「町屋敷越前屋」）」が竣工しました。町屋敷越前屋は、八幡市街地の中心である新町に位置し、文化財に指定された4軒の建物が連なる一角にあり、古い町並みを形づくる重要な建物です。今月号では、まちづくりの拠点として市が復原した町屋敷越前屋の概要や、活用についてお伝えします。

重要な歴史的建造物

町屋敷越前屋は、平成27年に市が土地を購入し、建物については所有者より寄贈いただきました。明治の初期に建てられた建物は、間口が4間（約7・3m）、奥行きが25間（約45・5m）と非常に大きな町屋です。また、新町の通りに面した主屋の一部分は、平成19年10月に国の登録有形文化財に登録され、近隣の登録有形文化財2軒、市の指定文化財1軒とともに、往時の町並みの様子を伝える重要な歴史的建造物となっています。

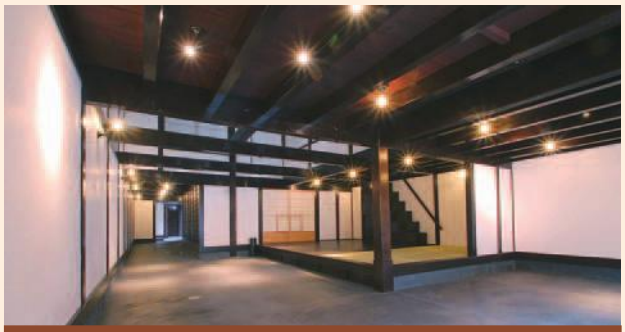
11月1日に竣工

市では、古い町並みの保全や、持続可能な魅力あるまちづくりに役立てるため、町屋敷越前屋の活用に向けた調査や基本構想の策定を平成28年度から進め、平成30年度からは、改修の設計や工事に取りかかりました。今年9月に工事が完了し、11月1日に関係者出席のもと竣工式が行われました。翌11月2日からは、さまざまなオープニングイベント（詳細は4頁）が開催されました。「郡上八幡　町屋敷越前屋」という名称は、以前から広く親しまれている屋号の「越前屋」を引き継ぐことで城下町郡上八幡の生活や文化の記憶を将来にわたって残し、歴史が息づいている町としての発展を願い名付けたものです。

建築当時の価値を再現

今回の改修工事は、施設の耐震化とともに、歴史的な建造物として当時の様子が伺えるよう、出来る限り再現することを目的としています。もともとは商家として使われていた建物ですが、昭和に入り、時代の流れとともに手が加えられてきたものを建築当初の姿に戻すため、柱や梁、天井の部材など、耐震に影響がないものはそのまま活用しています。また、耐震工事により取り払いが必要になった壁や正面の格子も、建築当初の

1階和室（奥の間）



土間（多目的スペース）

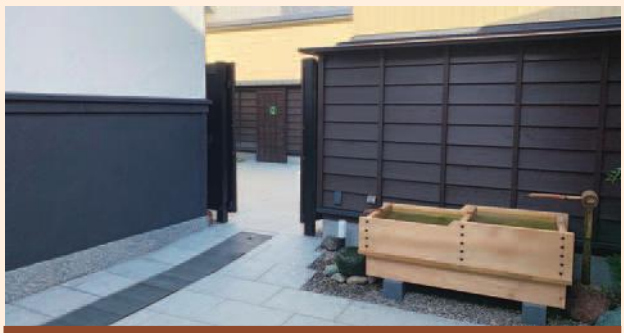
赤ちゃんの駅（外観）

中庭

土蔵（奥の蔵内観）

土蔵（奥の蔵外観）

2階和室（中座敷、脇座敷）



イベントスペース（蔵庭、奥庭）

痕跡を探り、その色あいの再現に努めています。建物の最奥部に2つある蔵（土蔵）についても、老朽化が著しい箇所などありましたが、蔵が持つ雰囲気や構造、価値を損なわないよう改修をしています。総事業費は、土地の購入を含め、2億145万2千円。財源には、国土交通省の空き家対策総合支援事業補助金7，576万5千円（補助対象経費の2分の1）を活用しています。

地域の活性化に活用

町屋敷越前屋は、市民や観光客など、多くのみなさんに見学をしていただきながら、町屋の暮らしぶりを感じていただくとともに、郡上の地域資源を生かしたものづくりや、市街地のコミュニティの活性化など、まちづくりや観光などの地域資源としても活用していきます。

開館時間は、午前9時から午後5時（利用予約時は午後10時）まで、休館日は、年末年始の29日から3日までと、毎週木曜日、そして祝日の翌日としています。イベントやワークショップ、会議など利用予約は、市長公室政策推進課（67・1844）まで問い合わせください。

まちやしき文化祭

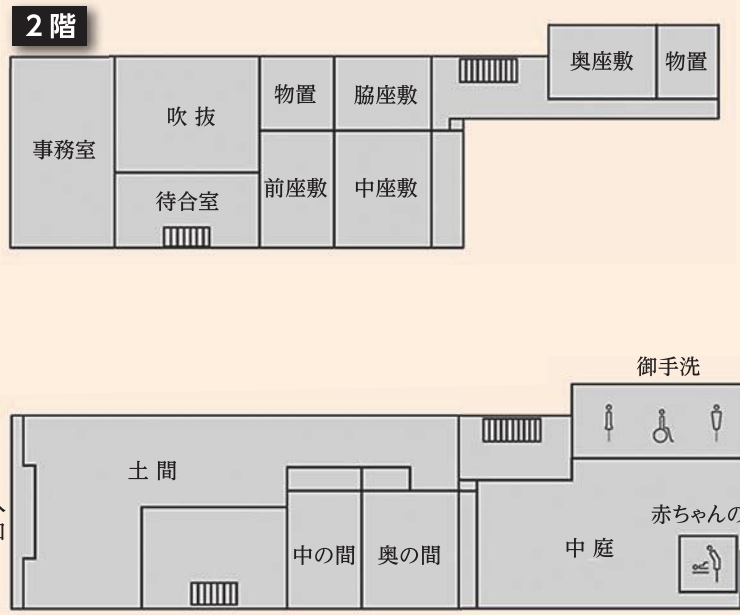
オープニングイベントそこかしこ

市では、町屋敷越前屋の竣工にあたり、さまざまなイベントを行いました。イベントは、八幡市街地まちづくり会議が企画し、「まちやしき文化祭」と銘打ち開催されました。このページでは、多くの人が訪れた期間中の様子を写真で紹介します。

町屋敷越前屋 位置図

1. オープン初日から多くの人が来館（土間でのものづくりの展示） 2. なごみ会のみなさんによる呈茶でおもてなし 3. お母さんの手仕事を子どもたちが体験した「ハハノテシゴト」 4. 着物の着方を見ていただく「着付けミニミニショー」 5. 郡上八幡の歴史を辿る写真展 6. 市内7事業所が出展した企画展「郡上のものづくりを紐解く」 7. 郡上本染め職人の渡辺一吉さんによる藍染め手ぬぐいづくり体験（蔵庭にて）

町屋敷越前屋の間取りをご案内します！



八幡市街地まちづくり会議
事務局　黒本（くろもと） 剛史（たけし）さん

有益な施設運用を進めます

市では、町屋敷越前屋の管理業務を八幡市街地まちづくり会議に委託しています。施設2階の一角に管理事務室を設け、事務局員が常駐し、日々の管理業務を行う傍ら、地域づくりやコミュニティの醸成についても必要な支援を行っていきます。

建物は、一階入り口に土間があり、土間に並んで帳場や和室、さらには中庭、土蔵へと続いています。こうした特有の構造をうまく生かしながら、建物の価値を伝えるとともに、まちづくりに活用していくことになります。

新町発展会会長の岸山（きしやま）孝和（たかかず）さんは、「地域の課題解決につながる施設となるよう、多くの人が関心を寄せてほしい。そして、地元のみなさんに愛される施設になることを願っています。」と話されました。市では、町屋敷越前屋について、町の魅力や町屋の暮らしをPRするほか、地域資源を活用したチャレンジショップや工房としての使用、観光客のおもてなしにつながるサービス、また、まちづくり活動の拠点としての機能を持たせながら、集会所やサロンとしての活用が図られるよう、有益な施設運用を進めていきます。

八幡市街地
まちづくり会議

上村彩果（かみむらあやか）さん

暮らしの価値を発信する市街地の拠点に

新町は、八幡市街地のメインストリートにあります。町屋敷越前屋がオープンしたことで、新しい人の流れができ、商店街が活気づくことを期待しています。そして、郡上八幡の魅力のベースとなっている「日々の暮らし」の価値を、町屋敷越前屋からみんなで発信していきたいと思います。この価値を多くの人に伝えることで、ものづくりや文化活動のチャンスが広がり、チャンレンジの連鎖が生まれると思います。

八幡市街地
まちづくり会議
会長

加藤徳光（かとうとくみつ）さん

みなさんが立ち寄る「まちのよりどころ」に

町屋敷越前屋は、市民のみなさんはもちろん、観光客を含めて多くの人が気軽に立ち寄れる「よりどころ」になることを期待しています。まちづくり会議としても、ものづくり文化の発信や、まちを元気にしようとする人の後押しをしていきたいです。建物の価値に注目が集まるだけでなく、まちづくりの活動にみなさんが関心を持ち、そして自ら行動する人が増えるよう、この施設を生かしていければと考えています。